

二九六七番

年の経としへば 見みつつ 憊しのへと 妹いもが言いひし 衣ころもの縫ぬひ  
目め 見みれば 悲かなしも

二九六八番

椽つるはみの 一重ひとへの衣ころも 裏うらもなく あるらむ 見こ見ゆ故こ 恋こ  
ひ渡わたるかも

二九六九番

解とき衣きぬの 思おもひ乱みだれて 恋こふれども 何なにの故ゆゑそと  
問とふ人ひともなし

二九七〇番

桃つ花き染そめの 浅あさらの衣ころも 浅あさらかに 思おもひて 妹いもに  
逢あはむものかも